



B

Bump-In-The-Wire (BITW) トポロジー

SCE プラットフォームは、加入者側とネットワーク側を結ぶデータ リンク上に物理的に存在し、トラフィックの受信および送信の両方を行うことができます。

C

Collection Manager (CM)

SCE プラットフォームからの Raw Data Record (RDR) を収集、処理し、レポート用に加工するソフトウェアアプリケーションです。

Cutoff

リンクを切断してトラフィックの転送を停止し、物理的リンクを強制的にダウンさせるメカニズム（レイヤ1で切断）です。

I

Inline 接続モード

SCE プラットフォームは、加入者側とネットワーク側を結ぶデータ リンク上に物理的に存在します。トラフィックの受信および送信の両方を行うことができ、トラフィック制御およびモニタが可能です。

P

PQI (Service Control Application Installation) ファイル

SCEプラットフォームまたは関連するソフトウェア モジュールにインストールされる、アプリケーションパッケージファイルです。

R

Raw Data Record (RDR)

SCE プラットフォームによって作成されるデータの記録で、トラフィックのイベントを報告します。SCE プラットフォームによって作成された RDR は、Collection Manager (CM) に送信されてから CM データベースに格納されるか、サードパーティ製のシステムに転送されます。通常、RDR は、クォータ要求またはサービス使用状況に関するレポートを含みます。

Receive-only 接続モード

SCE プラットフォームが、物理的にデータ リンク上に存在していません。データは受信だけが可能で、送信できません。

このモードでは、トラフィックのモニタだけが可能です。

S

- SCAS BB Console** *Service Control Application Suite for Broadband (SCAS BB)* システムを制御するのに使用されるユーザインターフェイス。サービス コンフィギュレーションの作成、変更、および適用に使用されます。
- SCE プラットフォーム** サービス コントロール専用のハードウェア サービス コンポーネント。このハードウェア デバイスは、ワイヤ スピードでパケットの高度な分析を実行することができます。回線上でトラフィックをモニタし、データ転送先となるアプリケーションに提供するべき未加工データを作成します。データ転送先のアプリケーションでは、報告、ポリシー管理、サブスクリプション管理、および多階層サービスの加入者利用状況を把握できるトラフィック ポリシーの実装機能などで用いるために、このデータを加工します。
- SCE プラットフォームには、SCE 1000 2xGBE、SCE 2000 4xGBE、および SCE 2000 4/8xFE の 3 つのモデルがあります。プロバイダー ネットワークには、1 つ以上の SCE プラットフォームを設置できます。
- Service Control Application** SCE プラットフォームの動作を決定する SML プログラム。
- smartSUB Manager (SM)** 加入者情報とサービス コンフィギュレーションの、ダイナミック バインディングが必要とされる場合に使用されるミドルウェア ソフトウェア コンポーネント。SM は加入者情報を管理し、その情報をリアルタイムで複数の SCE プラットフォームにプロビジョニングします。SM は加入者サービス コンフィギュレーション情報を内部に保存することが可能で、AAA (認証、許可、アカウントिंग) システム (たとえば、RADIUS および DHCP) と SCE プラットフォーム間のステートフルなブリッジとして動作します。
- SML Loadable Image (SLI) ファイル** SLI ファイルは、SCE プラットフォームにロードされる SML アプリケーションを含むソフトウェア パッケージ (Service Control Application ソリューションの一部) です。SML アプリケーションが、SCE プラットフォームの動作を決定します。同一 POP 内にある場合でも、異なる SCE プラットフォームがそれぞれ別の SML アプリケーションを持つことができます (オペレータは SLI ファイルにアクセスする必要がありません)。

か

- 外部スイッチ トポロジ** SCE プラットフォームは、物理的にデータ リンク上に存在しません。外部スイッチを介してデータが SCE プラットフォームに転送されます。外部スイッチは、すべてのトラフィック (双方向) を SCE プラットフォームのファストイーサネット ポートの 1 つに送信します。
- スイッチは SPAN (スイッチ ポート アナライザ) 機能をサポートしている必要があり、トラフィックの上りと下りの区別、および複数の宛先 SPAN ポートの区別ができなくてはなりません。
- 外部スプリッタ トポロジ** SCE プラットフォームは、物理的にデータ リンク上に存在しません。光スプリッタを介してデータが SCE プラットフォームに転送されます。光スプリッタは、リンク上のトラフィックを分割し、スプリッタを介して伝送を行いながら、すべての情報を SCE プラットフォームに送信します。光スプリッタは、物理的にギガビット イーサネット リンクに接続されます。SCE プラットフォームの 2 つの GBE インターフェイスのうち、受信側だけがスプリッタに接続されます。
- このトポロジでは、トラフィック フローのモニタだけが可能です。

は

- バイパス モジュール** SCE プラットフォーム内の独立したハードウェア メカニズムで、プラットフォームの他のモジュールのステータスに影響されずにトラフィックを転送します。